

第6回ようざん事例発表会

「事業所自慢」



平成26年9月18日

第6回ようざん事例発表会 その2

地域に根差した施設を目指して“グループホームならではの地域交流”

グループホームようざん飯塚 高濱 志乃里 p.2

「みんな、いいえがお」

スーパーデイようざん石原 宮一智子 p.4

「高崎市で初めて」の定期巡回・随時対応型訪問介護看護に取り組んでみて

キュアステーションようざん飯塚 小金澤 玄 p.7

～自然が心に響かせること～

ケアサポートセンターようざん石原 佐藤 亮 p.13

「回光返照」～誕生から17か月の軌跡～

スーパーデイようざん中居 矢野上 仁 p.15

～『栗崎名物手打ちうどん と 畑』自給自足の楽しみ方～

スーパーデイようざん栗崎 有馬めぐみ p.19

ここはようざん学校倉賀野教室 ～“ホッ”とする空間作りへの取り組み～

ケアサポートセンターようざん倉賀野 川連 晃子 p.22

「笑顔の溢れる街の名は ぼから」

デイサービスぼから 北沢 奈美子 p.26

チームワークの先にあるたくさんの笑顔

ケアサポートセンターようざん栗崎 関 美沙紀 p.29

地域に根差した施設を目指して

“グループホームならではの地域交流”

グループホームようざん飯塚
高濱 志乃里

はじめに

グループホームとは地域密着型サービスの一つです。そこで暮らす入居者様は、その地域の住民として、地域全体を活動の場、拠点として生活してゆくことができます。また、今まで住み慣れた土地で生活し、馴染みの人たちの近くで自身の過去の生活との連続性、継続性を保ちながら、家庭的でゆったりとした環境で共同生活をする事で、認知症の進行を緩やかにし、家庭介護の負担も軽減することができます。私たちがグループホームとして、地域との関係をより一層深め、地域に貢献するためにはどのようにしたらよいのか？ 私たちにできることとは何かを考え、行った取り組みを途中経過ではありますが報告します。

グループホームようざん飯塚の地域との関わり

グループホームようざん飯塚では、地域に根差した施設を心がけており、地域交流の一環として今年の3月より町内の区長さんや民生委員さんと話し合いの場を持ち、4月から毎月、飯塚地区で開催されているいきいきサロンに参加しております。飯塚第一町内のいきいき元気サロンに参加させて頂いた際には、認知症とはどのようなものであるかという説明や、グループホームでの生活の様子、共用型デイサービスの紹介をさせていただきました。日頃グループホームにて行っているレクダンスなども披露し、私たちも地域の皆様の輪の中に入り、一緒に楽しみ汗をかいてきました。又、年間行事予定にて計画されている「ゲーム、レクリエーション」でのイベントの提案もする事になっており、地域の皆様に楽しんでもらえるものを企画しようと、グループホームの入居者様にも協力していただきながら一丸となって計画しています。民生委員の方からも是非とのお声をいただきました。

飯塚第二町内のいきいき元気サロンにおきましては、地域の方々から介護について苦勞されたお話や体験談、不安に思っている事などを伺い、とても有意義な意見交換をすることができました。そこで持ち上がった介護に関する問題点、意見や要望などを運営推進会議の場にて取り上げさせて頂き、市の職員などに提案いたしました。これからも地域と行政をつなぐパイプ役になれるよう、地域の方々との活発な意見交換ができればと考えております。翌月のいきいきサロンではグループホーム自慢の手作りの和菓子をお持ちし、お茶会など各種イベントなどのご案内をしましたところ、たくさんの方が興味をお持ち下さり、後日問い合わせがありましてお茶会にご参加いただくことになりました。地域の方が参加されたお茶会では、お客様をお迎えした入居者様の笑顔もはじけ、地域の方との交流により一層会話も弾み、いつもより明るくにぎやかとなり、本格的な先生指導のもと、茶道体験して頂き和菓子にも大変感激していただきました。地域の方からは「普段からこういう施設

に行ってみたくは思っていたんだけど、なかなか機会もなくてね」と、興味深々に苑内をご覧になられてもいました。お茶会終了後には、地域の方が得意だという折り紙を披露してくださり、入居者様は、色とりどりの折り紙で作られた八角箱に感心され、一緒になって製作を楽しむ様子が伺えました。又、自慢の玄関前の花壇の色とりどりの季節の花も、利用者様と一緒に、楽しそうにご覧になられ、次回花を植える際には声を掛けて頂き、これからもぜひ定期的に参加させて下さいとのうれしいお申し出をいただきました。また別の日には、鍵の掛かっている玄関先に下げられているチャイムが音を立てたため、職員が様子を見に行くと、女性が立っておりサロンへ参加された方から話を聞いて尋ねて下さったそうで、子供さんが来年福祉大学を受験されるため、施設見学希望と、職員からの話が聞きたいとのことでした。ぜひお出かけ下さいとお伝えすると、翌日すぐに息子さんと一緒にいらして下さいました。お二人は施設内を見学し、職員の仕事の様子を熱心に見ておられ、いろいろ質問されていき生の現場を見ることが出来て、とても参考になりましたと笑顔で帰られました。現在はボランティア活動にて施設に足を運んで頂いています。ほかにも、北小学校の2年生の校外学習による「町たんけん」では、たくさんの生徒さんが訪問してくれました。本来質問すべき生徒さんよりも、入居者様たちが次々と質問を浴びせかけてしまうこともありましたが、自分たちが生活している町にはこのような場所があり、入居者様と職員と一緒に生活していることに興味を持って、いろいろな質問をしていってくれました。生徒さんたちは、入居者様から渡されたお土産の鉛筆を、とても大事そうに探検バッグにしまってくれました。

現在、グループホームの花壇には、たくさんの「ふうせんかずら」が風船の実をつけています。花壇の脇を通りがかる小学生に、楽しんでもらえて、話ができるきっかけになったら、という職員の思いがかわいいハートの模様が描かれた風船の種を通して実を結ぶといいなと思っています。

まとめ

私たちは今まで、介護が必要な方や、その家族の方だけに目を向けてきてはいなかったでしょうか？この地域には、高齢者だけではなく、赤ちゃんから元気いっぱいの小学生、未来に向かって夢を叶えようと努力している高校生、その他、様々な方が共に生活をしているのです。今回の地域交流では、私たちグループホームとその入居者様が、住み慣れた土地で暮らし、まわりとふれあうだけではなく、様々な人のお役に立ちいろいろな形で地域にも貢献できる、そんな希望と自信を持つことができましたし、その方法はたくさんあると感じました。現在、地域密着型の施設やグループホームなどは認知症の相談拠点としても、市や県などから期待されています。本当の意味で地域のお役に立てる「地域密着型グループホーム」としての役割を、これからもより多くの地域住民の方々と交流しながら、模索し続けていきたいと思っています。

「みんな、いいえがお」

スーパーデイようざん石原

宮一智子

<はじめに>

私達スーパーデイようざん石原の自慢は、ずばり22名のご利用者様です。かと言ってここで全員のご利用者様をご紹介する事は難しいので、とても残念ですが泣く泣く割愛をさせていただき6名のご利用者様をご紹介させていただきます。

<利用者様紹介>

氏 名：O様
性 別：男性
年 齢：89歳

ご利用当初は「じゃあ、これで」と急に椅子から立ち上がられ帰ろうとされる事が度々。慌てて「これから〇〇を始めますから、一緒に参加していただけますか？」とお誘いすると腕時計に目をやり「忙しいから時間がないんだよ」との返事。それでも「そうなんですかあ、大変ですね。でも大丈夫ですよ。帰りは車で家まで送りますから」とお伝えすると渋々ながらホールに戻られるの繰り返しでしたが、今では制作活動は集中して取り組まれ塗り絵は絵の情景にあわせた配色と濃淡を上手に使い分けられ綺麗に仕上げられます。歌唱でも「良いですか？行きますよ。1・2の3、はい！」と元気に掛け声をかけられ時にはわざと(?)音程を外され皆さんを笑わせたりと良きムードメーカーになって下さっています。

ご担当の居宅の大坂さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしくお願い致します。

氏 名：S様
性 別：女性
年 齢：87歳

ようざん石原きっての美人で計算も速く漢字の読み書きも正確で、塗り絵や貼り絵も手際よくとてもお上手と正に才色兼備です。だからと言って決してツンっとされている訳では無くハラハラ感が伴うゲームでは「ドキがむねむねしちゃうわ」と言われるお茶目さと「Sさんは、モテタでしょう？」との質問に「まあね。男遊びは随分したわよ」とさらりと答えられる大胆さも持ち合わされた魔性の方です。

ご担当の居宅の阿部さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしくお願い致します。

氏 名：M様
性 別：女性
年 齢：68歳

毎回ご自分が苑に到着された時や他の利用者様が到着される度に「おはよう！」と元気に挨拶をされ、常に「ありがとう」「大丈夫？」と他の利用者様のみならず職員にも感謝と気遣いの言葉掛けを下さる聖母の様な方です。

カラオケと制作が大好きで大変お上手です。今回のフォトコンテストのポスターの色塗りも担当して下さい、日頃の腕前を存分に発揮され、見事優秀作品に選ばれた影の立役者でもあります。

氏 名：S様
性 別：女性
年 齢：77歳

前の前にご紹介したS様に負けず劣らずの才色兼備で、レクからお手伝いまでテキパキとこなされ、園芸ではお花の植え込から水やりまでして下さい、お蔭様で残暑厳しいこの時期でもきれいに花が咲いて皆さんを出迎えています。また、ランチやおやつレクでは毎回エプロン持参で参加をして下さい、こちらもテキパキと段取りも指示出しも良く、すっかり職員がお手伝い状態です。2番目にご紹介したS様は魔性でしたが、こちらのS様は姉御肌でリーダー的存在です。『お友達から「最近元気になったわねえ」と言われて喜んでいます。これもようざんさんのお蔭です』とご家族から感謝のお言葉を頂きました。

ご担当の居宅の内田さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしくお願い致します。

氏 名：Y様
性 別：男性
年 齢：89歳

芸術家肌のY様、塗り絵や貼り絵では格段のこだわりが見られ、用紙を“じーっと”見つめたまま1時間。他の方が塗り終わる頃にやっと手が動き出します。こんな事もありました。全員でトンボの塗り絵を始めたところいつもの様にじーっと見つめたまま「最近めっきりトンボを見なくなったね」と隣の方に何度も話しかけるので「口は良いから早く塗れば」と言われても、まだまだ手は動きません。「これから赤トンボの季節になりますから赤で塗りましょうか？」と水を向けても「赤かい？でも翅は透明だよ」と納得されず、とうとうこの日は、白トンボのままでした…

一方でゲームなどでは、年齢を感じさせないその機敏な動きで毎回3位以内入賞の常連さんです。風船バレーでは椅子が倒れそうな勢いで風船を追いかけられるパワーの持ち主でもあり、そんな男らしさと一寸したところで垣間見せる優しい言動で女性利用者様から

人気があります。

ご担当の居宅の沼澤さんありがとうございます。スーパーデイようざん石原まだ若干の余裕がありますので、よろしく願い致します。

氏 名：T様

性 別：女性

年 齢：80歳

椅子に座って何かしているよりも体を動かすのがお好きで、運動系のゲームではハッスルされ毎回上位入賞されています。「Tさんは、子供の頃お転婆だったでしょう？」とお尋ねすると「バレーボールをしていたのよ」との事。これに“どうりで”と一同納得。かるたでも椅子から立ち上がられ戦闘態勢。取り札をたくさん持っている利用者様には「あんた、ちょっと遠慮しな！」とぴしゃり。緊迫感の中でお札では無く笑いを取られています。

以上、代表で6名のご利用者様のみのご紹介となってしまいましたが、その他の方も個性豊かで、私達職員は毎日楽しく時には悲しみや悔しさの中で様々な事を学ばせていただいている事に気づかされます。紹介の中でご家族から感謝の言葉とありましたが、実は私たち職員がご利用者様やご家族に感謝の気持ちで一杯です。

この気持ちを胸に職員一同恵まれた環境の中でご利用者様、ご家族、地域の為に“安心・安全・笑顔満開”のスーパーデイ石原を築いて参ります。

「高崎市で初めて」の

定期巡回・随時対応型訪問介護看護に取り組んでみて

キュアステーションようざん

小金澤 玄

① キュアステーションようざん飯塚とは、
定期巡回訪問介護看護サービスを行う事業所として平成25年9月15日に開設し、当時群馬県では2件目、

高崎市では初めての事業所です。

日中・夜間を通して、24時間365日、一人ひとりの生活のリズムに沿った訪問介護、訪問看護のサービスが受けられます。

② キュアステーションようざん飯塚では、
サービス付き高齢者住宅「ブランドールようざん飯塚」にお住まいの30名への訪問介護・訪問看護サービスと、住み慣れた地域での在宅生活の継続を目指す「地域」訪問介護・訪問看護サービスの2種類のサービスを提供しています。

地域定期巡回訪問サービスでは、ご利用者様のニーズに合わせて夜間の訪問も行っています。

③ 訪問介護との違いは、
訪問介護サービスは1度訪問サービスを行うと概ね2時間間隔をあげないと利用できませんが、キュアステーションようざん飯塚が行っている地域定期巡回訪問介護看護では1ヶ月の利用料金が定額で24時間365日

いつでも・何度でも訪問が利用できます。

④ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護とは(定期巡回・随時対応型訪問介護看護 基本指針)

要介護状態になった場合においても、その利用者が尊厳を保持し、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来る様、定期的な巡回又は随時通報によりその者の居宅を訪問し、入浴・排泄・食事等の介護、日常生活上の緊急時の対応、安心して自宅で生活を送る事が出来る様にする為の援助を行う。療養生活を支援し、心身の機能の維持回復を目指すものである。

介護と看護が連携し、利用者の心身の状況をきめ細かく把握して柔軟にサービスを提供する。24時間対応の安心をプラスした、従来のものとは全く異なる新たなサービスである。介護が必要となっ

でも、また、中重度の方であっても、利用者の状況とニーズに沿ったサービスを提供することで、住み慣れた地域での在宅生活の継続を目指す。

定期巡回サービスの訪問時間や訪問回数、サービス内容等が一人ひとりの心身の状況に沿ったものとなる為に、ケアマネジャーと計画作成責任者、介護と看護、地域医療等が連携を密にし、高齢者の暮らしを多職種によるチームでしっかりと支えていくものである。

<事例1>

認知症の方の独居生活を定期巡回サービスで総合的に支援

■サービス利用開始時における本人の状況

【性別】 女性 【年齢】 85才 【身長】 145cm 【体重】 35kg

【要介護度】 要介護1 【病歴】 アルツハイマー型認知症 甲状腺機能亢進症

【服薬】 有り

【障害高齢者の日常生活自立度】 J2 【認知症高齢者の日常生活自立度】 II

■サービス利用開始時における家族の状況

【同居家族】 なし(独居)

子供が亡くなった事で離婚。

再婚するが6年前に死亡。【家族図】

【別居家族】 義兄

足門に住んでおり、年に数回顔を見せに来る程度。ほとんど関わりはない状況である。

■サービス導入前の状況

【導入前の状況(サービス利用を検討したきっかけ、理由)】

6年前に夫が亡くなり借家に一人暮らし。大家さんが裏に住みなにかと世話を焼いてくれる。義兄が足門に住み、

あまり行き来は無い。平成25年2月頃より認知症の症状が現れる。物忘れや被害妄想があり、友人の女性にお金を返せと何度も訴えて、その女性が包括に相談し来所する。その後包括が関わるが受診や介護に強い拒否がある。大家さんが付き添う事でようやく受診し「アルツハイマー型認知症」と診断される。しかし、服薬管理出来る環境でなく、薬の処方はされなかった。義兄の申し立てにて成年後見人が決まり9月より後見開始。T 医院 T 先生が訪問診察を行う。長谷川式11点。歩行には問題なく近隣スーパーに歩いて買い物に行く事が出来る。洗濯は出来るが、掃除は出来ない。ガスは止められている為入浴はしていない。炊飯は出来るがおかずはスーパーで購入し食べている。後見人から渡されているお金で何とか支払いは出来ている。安否確認に訪れるヘルパーなど

の訪問や介護を受ける事には強い拒否がある。

【導入前の利用サービス】

介護保険サービス:訪問介護 T 医院 T 先生往診

【本人及び家族の希望】

毎日買い物に出かけて、自分の目で見て好きな物を買って食べる。ごはんを炊くのも日課である。これからも家で生活し、出来る事は自分でしたい。

※ケアマネジャーと計画作成責任者はどのように考えたか？

身体介護 安定した精神状態を維持していく為に服薬が必要だが、薬の管理が出来ていない。確実に飲める様に訪問介護員から手渡す必要がある。アルツハイマー型認知症があり、食事を摂ったかどうか不確かである為、適切に食事を摂るように声掛けや配膳の支援が必要だが、本人の気に障らないよう、声の掛け方に配慮は必要である。

生活援助 洗濯は途中で忘れてしまう事もあるが何とか出来ている。不要な物を捨てたり、掃除や整理整頓が出来ない状況である。室内の清潔保持の為に掃除が必要だが、物盗られ妄想がある為、何かを破棄する時は、本人の見ている所で一緒に確認を行いながら破棄する必要がある。また期限切れの食品を口にしている為、確認が必要である。買い物は持っているお金を全部使ったりする為、日常生活用品に関しては代行による買い物支援が必要である。

医療・看護ケア 定期的な往診があり、服薬がきちんと出来ていれば特に問題なし。

随時対応 ケアコール端末の操作に関してなかなか理解が進まない、緊急時には電話を使用する可能性が高い。

その他 金銭管理については、親族から協力が得られない為、成年後見人制度による支援を受けている。

総合的援助方針 ・服薬管理をきちんと行い、安定した精神状態の維持を支援する。

- ・食事を定期的にとる事で、心身の健康状態の維持・回復を図る。
- ・自宅で安全に日常生活が送れるよう、買い物代行や環境整備を行う。

■サービス利用による効果

人との交流の無い生活をしていたが、きめ細かな訪問により、他の事業所では対応困難だった利用者様が訪問介護員を受け入れてくれるようになり、色々な話を自発的にするようになっていく。1度腰痛で動くことが出来なくなった事があったので、訪問時に体調の確認を行っている。その為本人の訴えがあった際には、迅速に対応出来ている。食事も訪問介護員を受け入れる様になった事により、配食サービスを行い定期的に提供でき摂取出来るようになっていく。お金が手元にあると使い過ぎてしまうという問題はあるが、残りが少なくなると慎重になるといった努力も見られる様になった。

本人は、自分で出来る事はしようとしており、本サービスを利用する事により混乱が軽減され、意向に沿った生活が送れている。今では、外に出る事にも抵抗がなくなりブランドールのデイサービスを

利用する事も出来ている。

<事例2>

医療との連携により、認知症高齢者の日常生活を支援

■サービス利用開始時における本人の状況

【性別】 女性 【年齢】 82才 【身長】 155cm 【体重】 48kg
【要介護度】 要介護4【病歴】 レビー小体型認知 逆流性食道炎 神経因性膀胱炎
【服薬】 有り
【障害高齢者の日常生活自立度】 J2 【認知症高齢者の日常生活自立度】 M

■サービス利用開始時における家族の状況

【同居家族】 夫(87才)
長男夫婦
孫(20才) 【家族図】
本人 夫

長男 嫁 次男 嫁

【別居家族】 次男夫婦

吉井に住んでおり、時々プランドールに面会に来る。

■サービス導入前の状況

【導入前の状況(サービス利用を検討したきっかけ、理由)】

8年前に抑うつ症状を発症。平成24年4月頃より頻尿や物盗られ妄想・幻視が出現する。歩行障害も増悪し、同年12月頃S病院に通院始める。平成25年5月頃よりさらに頻尿・物盗られ妄想・幻視等の症状が増悪し、夫や家人などに暴力も振るうようになってしまった。自宅での対応困難となりS病院受診し入院加療となる。レビー小体型認知症と診断を受ける。入院中薬剤に過敏となり悪性症候群となってしまう漢方の処方のみとなる。平成25年9月7日退院し、翌日よりようざん内のデイサービスや訪問介護を開始する。

その後、同年10月13日プランドールに入居となる。

【導入前の利用サービス】

介護保険サービス： デイサービス 訪問介護

【本人及び家族の希望】

本人：家に帰りたい。時々、前胸部呼吸苦が出現し過呼吸状況有。辛いので楽になりたい。家族と一緒に暮らしたい。

家人:ブランドールで穏やかに生活をして欲しい。

※ケアマネジャーと計画作成責任者はどのように考えたか？

身体介護 ブランドールでの生活が出来る様にする為に服薬が必要だが、向精神薬の悪性症候群が出た事により中止となってしまった。埼玉県所沢市にあるぎまクリニックを受診し、レビー・ピック複合型認知症と診断を受ける。ウィンタミン・セロクエルを服用・リバスタッチパッチ貼付やニコリン注射で様子を診る。細かな変化や様子を観察し記録に残す。変化がある場合は受診日以外でも、看護師よりドクターに報告し指示を仰いだり、ケアマネジャーに報告し、対応する。

生活援助 物盗られ妄想がある為、居室の掃除を行う時は本人の見ていない所で一緒に確認をしながら行う必要がある。デイサービスで入浴し脱いだ洋服がないと騒ぐ事がある為、いつでも本人が確認できるロッカー内に入れておく必要がある。

医療・看護ケア 定期的な受診があり服薬をきちんとしているが夜間不眠であったり、不穏状態となり他の利用者居室を訪室したり、お腹が空いたとの訴えが多く、職員の目を盗んでは冷蔵庫内の食べ物を食べてしまう。帰宅願望から「お父さんと呼んで！」など大きな声を上げる。その為、看護師と連携し主治医との連絡・薬の調整などを行う必要がある。また、毎日の記録などから得た情報を手掛かりに定期的な看護・介護カンファレンスを行う。

随時対応 ブランドールに入居中である為、不穏時等は職員が傾聴するなど本人に寄り添う。居室においては「いつでもすぐに誰かに連絡が取れる」というナースコールを本人に使用してもらい、体調の急変時など予測が出来ない緊急時の対応を速やかに行う。

その他 毎日顔を合わす職員との関わりを通じて、みんなが自分の事を気にかけていてくれるという信頼関係の構築。また、デイサービスを利用し気分転換も図る。

総合的援助方針 ・心身の変化を的確に読み取り、本人の状況に応じたケア・及び服薬調整を行う。

- ・定期巡回で本人の状況をきめ細かく把握し、必要なケア・サービスを柔軟に提供していく。
- ・ようざんで初めてのレビー・ピック複合型と診断を受ける。症状の悪化を防ぐために確実な内服管理を行う。

■サービス利用による効果

退院後に家族の介護負担軽減を図る為、ブランドールへの入居となった。定期巡回・随時対応のサービスを利用し、きめ細かいケアを行ったことで、今では毎週土曜日に自宅への外泊が出来る様になり、お正月やお盆などでは2泊する事も出来るまでになった。看護師による服薬管理や定期受診、主治医へのアプローチや介護との連携でのカンファレンスなどにより、本人の混乱や家族の介護負担を軽減する事が出来た。

不穏時などの状態に合わせた柔軟な対応が出来、本人もブランドールでの生活をしながら定期巡回・随時対応の利用を継続し、本人や家族の望んでいる自宅への生活復帰が出来るのではと希望が見えた。

家族からも、「これで仕事をしていても安心していられる」と言われ、本人と家族の心の余裕が垣間見えるようになった。

事例1・事例2に携わってみて、職員はこんな事を感じました…

- ① 自宅や入居から看取りまで携われて、人生の最期を送り出せる貴重な経験が出来る職場である。
- ② 家だからこそ、その人のペースを大切に過ごしていただける様に心配りが出来る様になった。
- ③ 夜会議などを定期的に行い、何でも意見の言えるチームワークが出来た。
- ④ 自分で仕事を見つけられ動ける様になった。
- ⑤ 職員同士で上手く連携が取れる様になった。
- ⑥ 分からない事や苦手な事は自分で学ぼうとしないといけないと感じた。
- ⑦ 前の職場よりやりがいや楽しさを感じる。
- ⑧ 何より仲間を尊敬出来る。

<まとめ>

キュアステーションようざん飯塚は開設からちょうど1年が経ちました。

しかし、まだまだ正しい制度の周知・理解が進まず利用者を取り巻く環境や心身の状況に応じての対応に改善が必要だと感じています。

本来の趣旨である「柔軟」「きめ細かい」「安心」を届けられるキュアステーションであり続ける為に…仲間と共に反省・努力をし続けている事が

キュアステーションようざん飯塚の自慢です。

～自然が心に響かせること～

ケアサポートセンターようざん石原

佐藤 亮

(はじめに)

ご家族や親類の方が利用する介護施設を選ぶ時、皆さんは何を基準として選ぶでしょうか？使いやすさ、利用料金、職員や施設内の雰囲気、基準は色々あると思います。その中で施設の立地条件というのも大きなポイントとなるのではないのでしょうか。穏やかに、のんびりと散歩や自然を楽しめる環境。このような環境の中にあるのが私達のようざん石原です。

「ピンポン」玄関のインターホンが鳴り見学希望の方がいらっしゃいました。一通り施設をご覧になり、詳しい説明をさせて頂き、質問なども伺い、見学も終了。お帰り際にいつも頂く言葉があります。「ここはのどかで自然もあっていい所ですね」と言う内容のお言葉です。

そのような時、私達は「ええ、皆さんそうおっしゃいます。お勧めですよ。」と自信を持ってお応えします。このようなようざん石原のある石原町と施設周辺のご案内をさせて頂きたいと思います。

皆さんは「石原町」と聞いて、まず何を思い浮かべますか？「ん～、観音山のそば？」、そうです。観音山の麓にあります。その観音山も白衣観音や護国神社、染料植物園は利用者様とよく行かれる馴染みのスポットだと思いますが、聖石橋を直進する「観音通り」を進んでいくと「清水寺」が見えてきます。清水寺は地元で、「あじさい寺」として有名で、6月には「あじさい祭」も開かれています。ただ階段が多いので、利用者様と行くより、彼氏彼女と是非どうぞ。

では、観音山は出掛けるとしたら、いつですか？「今でしょう」それは去年の流行語です。

「やはり、桜の頃？」、その通りです。春夏秋冬どの季節も趣があつて素敵なのですが、やはり4月、桜の花の頃は格別です。近くで観てもきれいですが、烏川の対岸、国道沿いから、桜色に染まった観音山を眺めるのも、なかなかだと思います。

ところで、市街地から烏川には、和田橋、聖石橋、城南大橋とありますが、そのうち聖石橋と城南大橋が石原町に面して架かっています。実は、聖石橋を渡った烏川西岸が桜の名所なのです。河川敷のグランドそばにテーブル、ベンチがあつたり、バーベキューエリアがあつたりと、利用者様と来るにもオススメのスポットです。屋外トイレもありますが、ようざん石原のトイレをご利用下さい。

そして、ここ石原町一の自慢が石原緑地公園です。城南大橋の南側から聖石橋の北側まで南北に全長約1km、面積は14,3haと市内最大の緑地公園ですが、広さだけでなくその整備された環境も高崎一だと思っています。南端は犬と一緒に遊べ、テーブルもあるピクニックエリア、そこから北端まで芝生の緑が広がっています。小川や蓮池、そして緑を縫うように遊歩道が通っており地元の方々の憩いの場となっています。また、平日はグランドゴルフの練習、時には大会が開かれたり、適度にアップダウンのある緑地は絶好のランニングコースとして、日々トレーニングに励む方や競技会も行われています。

天気の良い週末ともなれば、家族連れで賑わっています。

ようざん石原はそんな緑地公園のすぐ隣にあります。

四季折々、夜明けから日没までいろいろな表情をみせてくれる緑地公園。当然のことながら、ようざん石原の利用者様ともよく散策に出掛けます。桜の木の下でお弁当を食べた4月、土手を吹き抜ける風が気持ち良かった5月、蓮の花を観賞したのは6月の午前中です。そして、夏。猛暑日の日でも烏川を吹きわたる風は涼感があり、爽快感すらあります。そんな風を感じ、陽射しを浴びる時、改めて自然の大切さ、健康であることの、そして、生きていることの有り難さを実感します。それと同時に、利用者様との、人と人との出会い、この一瞬を大事にしなければ、との思いに今更ながら気付かされます。それは、自然に触れないと忘れがちなことかもしれません。

ここにいらっしゃる皆さんに声を大にして言いたいです。「職場の人間関係に悩んでいませんか？」

「毎日のレク、行き詰っていませんか？」仕事でもプライベートでも、壁にぶち当たっていませんか？

そんな時、石原緑地に立ち寄ってみませんか？。大きく伸びて深呼吸をして見て下さい。芝生の上で大の字に寝そべってみて下さい。「自然は大きい。自分はちっちゃいなあ〜」と実感できると思います。何も問題は解決していないかもしれませんが、大きかった問題も「それ程でもないか」と感じ、「明日から、もうちょっと頑張ってみようか」と「プチやる気スイッチ」が入るかもしれません。

この原稿は緑地公園のベンチに座って書きました。いろいろな事に行き詰まってへこんでいたのですが、風に揺れる木々を見、小鳥の囀りを聴き、雲を眺めているうちに、「何をそんなに悩んでたんだっけ？」と、心も晴れていました。

利用者様と散歩をしていると、利用者様からは必ず「ここは気持ちいいね〜、」と言うお言葉を頂きます。その言葉の奥には、私がこの環境で感じとった爽やかな感覚を利用者様もきっと同じ思いで、感じられているのだろうな、とその都度、確信しています。

(まとめ)

天然の芝生が敷き詰められ、そこを吹き抜ける風、降り注ぐ陽射しは、自然そのものです。そのような自然の中にと、人間も自然の一部なんだな〜と実感するとともに、「自然な自分」になれる気がします。それは職員だけではなく、利用者様も同様ではないでしょうか。

自然の中では、認知症も関係ない“ありのままの自分”に戻れる気がします。フロアー内では決して見られないような表情をされたり、積極的に話されて会話が弾んだり。そんな利用者様と触れ合う度に「目に眩しい緑や陽射し、爽やかな風たちが心の扉をノックしているのでは」と改めて感じ取ることができるのです。

「ピンポン」玄関のインターホンが鳴りました。

どうやら見学希望の方のようです。

きっとこの方もお帰り際におっしゃるのは、「ここは、いい所ですね」だと思います。

「回光返照」

～誕生から17か月の軌跡～

スーパーデイようざん中居
矢野上 仁

【はじめに】

スーパーデイようざん中居がオープンして1年半が経ちました。思えば駆け足で色々なことに取り組んできました。四字熟語に「回光返照」という言葉があります。意味は自らの光を外へ向けるのではなく、内なる自分へ向けて、心の中を照らし出し、自分自身を省みるという意味です。ガムシヤラに進んできた私達ですが今まで利用者やそのご家族、ケアマネージャーの方々から要望があった事例に対して行ってきた自分たちのケアをここで振り返ってみました。職員紹介と共にその歴史をご紹介します。

【平成25年4月1日】<スーパーデイようざん中居生誕の日>

オープン当時のスタッフ紹介です。

- ・まずは私、スーパーデイようざん中居利用者限定「ようざんーいい男」矢野上。
 - ・どなたにも低姿勢で「ザ・素直！」な吉田さん。
 - ・レクも看護もお任せの「オールマイティー」な猪熊さん。
 - ・そして『ザ・スーパーデイようざん中居！』この人がいなければ成り立ちません！レクの締めには積極的におチをつけてみんなを笑わせてくれる行方所長。
- 各事業所から先鋭のスタッフが集まりました。

オープン当時は日々の利用者数0～3人と非常に苦しいスタートでした。女性の方で裁縫や習字が出来る利用者の方が多く、ホールの飾り(日付カレンダーや壁画など)と一緒に作って頂き、「利用者と共に作っていく」をテーマに取り組みました。

その中でお一人、女性利用者で来所拒否、帰宅願望の強い方がおられました。

名前、性別	Aさん、女性
年齢	87歳
要介護度	要介護3
障害高齢者の日常生活自立度	J1
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅲa
既往歴	認知症(アルツハイマー型と思われる)。 高血圧

家族からは元々外に出掛けたくない人で外に出られるか心配。かといってずっと見てられない。物忘れによる過食が心配。疲れた……。という話でした。

そんな時こそ私たちの出番！「まかせてください！」

個別対応でのドライブなどを積極的に行い、常に寄り添って話すことを心がけました。その結果、徐々に信頼関係が築け、当初週2回利用だったのが現在では週5回の利用になりました。ご家族様からも毎回のようにふれあいノートに感謝の言葉が記載されており、1度は入院したのですが退院後も是非こちらでお願いしたいとのお声も頂きました。

【平成25年5月】<新しい仲間>

オープンから1カ月が経った5月に入り新たに佐藤統子さんがスタッフとして参入。

・この人がいるから職員が色々出来る、最後をまとめるしっかりものの佐藤さん

この頃から、男性利用者の方も増え始めました。その中でお一人だけ紹介させていただきます。

名前、性別	Bさん、男性
年齢	86歳
要介護度	要介護度2
障害高齢者の日常生活自立度	A2
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅱa
既往歴	アルツハイマー型認知症、慢性硬膜下血腫

利用前は通所リハビリを利用していたが意欲の減退が始まり自宅で寝たきりになっていることが多くなった。外に出るのも億劫とのことで家族やケアマネからは以前のように畑へ出かけるぐらい元気になってほしいとの要望がありました。

そんな時には私たちに「まかせてください！」

ここでも寄り添って話を聞いていくことを中心にしていたのは当然のことですが、運動不足からの足の浮腫みがあったのでそこに着目しました。ケアマネや医師に許可を得てから足浴＋マッサージを行ってみました。日を重ねると足の浮腫みも良くなってきて、その事が本人の意欲向上に繋がりました(現在では足浴時にはリラックスした曲を流したり、アロマキャンドルを灯すなども行っています)。現在は元気になりすぎて再び通所リハに戻ってしまいましたが、ケアマネからは「あの時ここがあったから今の元気なB様がいる」と意欲が出たことへの感謝の言葉をいつもいただけます。

【平成26年6月】<フレッシュな新人2人が参入！>

・何事にも積極的にもしっかりしているが一番若い27歳の小林さん。

・利用者から孫のように愛されている栗原さん

【平成25年11月】<ターミナルケア>

初のターミナル宣告を受けた利用者様をお受けしました。

名前、性別	C様、男性
年齢	81歳
要介護度	要介護度3
障害高齢者の日常生活自立度	B1
認知高齢者の日常生活自立度	Ⅱb
既往歴	認知症(脳血管型、水頭症認知症かと思われる) 胆管癌、狭心症、心不全、前立腺肥大

ターミナル宣告を受けているけどデイに行っても少しでも他者と触れ合ってもらいたいけど受け入れもらえるか心配・・・。

ターミナルでも心配しないで「まかせてください！」

末期ガンで余命宣告を受けてから4か月が経っていてからの利用ということでした。元教師ということで職員は生徒となって寄り添って話を聞いていました。工作や絵が好きということでソファの台のペンキ塗りをレクで行なった所、目を輝かして指示をしたりご自分で塗ったりされていました。途中で看取りサービスに変更となり、翌年1月に逝去なさいました。ご自宅に趣味で描いたという油絵がたくさんあり、ご家族様の希望もあって数枚いただきました。今でもホールに飾らせてもらっています。

【平成26年6月】<最後の職員、飯濱さん参入！>

・優しい笑顔、利用者への接し方は職員の見本！飯濱さん

【まとめ】

本当にほんの一部しかご紹介できませんでしたが、今までのスーパーデイようざん中居の軌跡を辿ってみました。認知症状が軽く一般のデイサービスでも過ごせそうな方が少人数で今後の認知予防の為にあえてスーパーデイを利用する方、機能訓練重視の方、ターミナル宣告を受けた方、また、今回はご紹介できませんでしたがアルツハイマー型認知症でももっと重度の(記憶や見当識障害が顕著)な方や、前頭側頭型認知症で反社会的行動をしてしまう方、医療依存度の高い方など、振り返ってみると様々な方が利用していることに驚かされました。と同時に私達の仕事で大切なことは何か？を考えるキッカケともなりました。

どんな利用者の方が来ても柔軟に対応する姿勢がやはり大切で「ウチは認知症の人しか受けないから」ではなく「困ったらまず遊びに来てください。中でも認知症は詳しいですよ」というスタンスが求められていると思います。利用者のニーズは寄り添って関わらないとわかりません。そこで何よりも大切なのが「人」。おかげさまで家族からのお礼ではダントツに多いのは「このイベントや、レクを本人

喜んでいた」も多いですが、それよりも「職員さんがみんないい人」これがダントツです！朝のお出迎え時や、帰りのお見送りは必要最低限の職員をホールに残し、外の玄関まで出てお見送りをしています。

最高の「人」でこれからも柔軟に対応できる「笑顔のなんでも屋」を目指したいと思います。

～『栗崎名物手打ちうどん と 畑』 自給自足の楽しみ方～

スーパーデイようざん栗崎
有馬めぐみ

はじめに

「手打ちうどん」と「畑作り」がスーパーデイようざん栗崎に根付いたことでたくさん笑顔が生まれています。「栗崎名物手打ちうどん」・「栗崎アグリファーム」を始めて今年で3年になります。この手打ちうどんと畑作りを機に利用者様に変化が見られ、生活の楽しみの1つになっています。今回の発表は、スーパーデイようざん栗崎の畑と手打ちうどんを皆様に紹介いたします。

全員参加で楽しめる

現在、スーパーデイようざん栗崎では、64歳から94歳まで幅広い年齢の方々がいらっしやいます。また、介護度や認知度またADLに至っても様々です。そのため、作業においても向き不向きがありますが、畑・手打ちうどんでは、各利用者様ができることや自主性を尊重し、無理強いせずに参加して頂いています。製麺機を回して頂く・うどんをこねる（足で踏む）作業、収穫したばかりの新鮮な野菜の臭いを嗅いで触れて頂き五感に働きかける、些細なことでもその人にできることを尊重し、楽しめることを前提に取り組んでいます。

畑

畑を開始するきっかけは、身近に季節感を感じることができる場所を作りたいという考えからでした。今では、窓を覗けば季節の野菜たちを眺めることができ、実際にさわって何の野菜なのか日々収穫する楽しみに感動が生まれています。また、皆様に季節感や親近感を持って頂く為、作付けには馴染み深い野菜を選定するよう心掛けています。おかげさまで、昨年秋から今年の春にかけて「白菜・かぶ・オータムポエム」を収穫し今年の春は「じゃが芋・スナップエンドウ・ブロッコリー・いちご」夏は「キュウリ・ゴーヤ・オクラ・ミニトマト・パッションフルーツ・ナス」などたくさんの野菜と果物を収穫することができました。他に「マリーゴールド・ペチュニア・スノーポール・ジュリアンなど」のお花も植えて楽しみました。この秋には「かぶ・小松菜・オータムポエムなど」予定しています。主な農作業の内容としては、耕す、植えつけ、水やり・草むしり・まびき・収穫などがあります。どの作業も楽しく利用者様と行なっています。なかには、鼻歌を歌いながら農作業をしている利用者様もおられるほどです。農家出身の利用者様も多く、随所に農作業や畑作りのコツを教わりながら、皆様と楽しい時間を過ごしています。

また、ご近所の鈴木農園さんは、肥料の御裾分け、耕うん機での手助け、農業における

指導など、栗崎農作業の縁の下の力持ちを担って頂いています。時には「今年は上手くできたなあ」と褒めて頂きみんな大喜びで、益々勢が出ます。

手打ちうどん

手打ちうどんは、月に1回昼食レクとして行っています。季節に合わせて、前菜や汁を変えています。主に、利用者様と作業される事は、下ごしらえ(汁と前菜づくり)・生地踏み・生地伸ばし・製麺作業です。

汁や前菜の下ごしらえは、主に女性の利用者様と行うことが多いです。そして、この時期はどんな野菜を入れた汁がいいか相談しながら作ります。生地踏みは、足腰のトレーニングになる為、多くの方に足を動かして頂き機能訓練も兼ねています。生地伸ばし・製麺作業の際には、製麺機を使用します。製麺機に対し、皆様思い入れが強く、「これ持っていたよ。昔よく使ったなあ。」特に製麺機から美しく裁断された麺が出てくる瞬間は「ホラホラ、できた。きれいにできた。」と手に取って感動しています。「懐かしい！久しぶりに使う。うまくなるかな。」と昔の食糧事情や思い出話をされながら、和気あいあいとした雰囲気です。

ここ最近では、畑で収穫した野菜などを天ぷらにして、あつあつの揚げたて天ぷらを召し上がっています。自分たちの作った野菜ということもあり、美味しさ倍増です。

手打ちうどんの日は、皆様の食も進み、おかわりをされる方もたくさんいらっしゃいます。普段、食が進まない利用者様も、大好きな手打ちうどんの日ばかりは完食されます。

利用者様の変化

① 来苑されてからなかなか落ち着かず、不穏不安症状が強い利用者様のケース

農作業が大好きな方の為、朝の水やりをその方のお仕事にしました。落ち着きがなくなると畑に行き水やり。時には、草むしりや収穫。農作業の後には、必ず職員が「今日も、ありがとございました。」と感謝の意を伝えています。日を重ねるにつれ、農作業の楽しみを見つけたことで、来苑時の役割となり、ご自身の存在感を見出したことで不穏不安症状が緩和され、落ち着かれる時間が増えています。

② 意欲低下がみられ家事ができなくなってしまった利用者様のケース

自宅では、しばらく炊事をしていない利用者様。手打ちうどんの時は、職員と一緒に前菜やうどん汁のメニューを考えて作ることにしています。回数を増すごとに、料理に対する意欲がでてきたようで「次はもっと上手に作りたいね。」「次は冷やしうどんにしてみる？」など、意欲的な言動が増えてきています。

ご家族から、自宅でも炊事など家事を積極的にされるようになり、「認知症になる前のように家事全般をこなせて元通りになった、すっかり治ったよ！！」と。今では「ス

「パーデイようざん栗崎」の帰りに夫婦二人で買い物を楽しみ、帰宅してから二人で食事の準備を楽しまれるようになったと、報告された時は職員一同大変感激致しました。

③ すぐに興奮され協調性に欠ける利用者様のケース

元農家の利用者様。農園部長に抜擢し、耕し方・植え方・手入れの仕方など、を教えてくださいました。始めのうちは、不機嫌な様子も見えましたが、職員と二人三脚で園芸部長を半年ほど続け、収穫の時には他利用者とも打ち解け、笑顔で収穫を楽しまれていらっしやいました。特に「じゃが芋」の作付には、うねの感覚や高さなど細かな指摘があり、現役当時の記憶が鮮明によみがえるようです。以前に比べ興奮される回数も減ってきています。

最後に・・・

「栗崎名物手打ちうどん・栗崎アグリファーム」を通して、私たち職員は多くの素敵な経験をすることができました。また、認知症ケアとして、回想法・園芸療法・機能訓練・気持ちを穏やかにするなどの効果があります。

農作業・手打ちうどんのレクも利用者様と接するきっかけにすぎません。大切なことは利用者様と同じ目線に立ち、利用者様の生活の質を高めることだと確信しております。他者を思いやり・讃え、残存機能を活かし存在感を認識し自尊心を高めること。当たり前のことですが、多くの方々と農作業・手打ちうどんを通じ、改めて実感しています。家族の方々からも感謝の声が数多く寄せられています。

これからも来苑して頂くことで、利用者様も家族も職員も楽しく、喜びに満ちた笑顔あふれる日々を贈ります。

ここはようざん学校倉賀野教室

～ “ホッ” とする空間作りへの取り組み～

ケアサポートセンターようざん倉賀野
川連 晃子

A 様：“今日は学校お休みですか？”

職員：“今日は9時から開講です”

こんな電話のやりとりで始まる一日。ここはようざん学校倉賀野教室。人生経験豊かな人が集まってくる学校。ここで私達職員を“先生”と呼ぶ、ある利用者様への取り組みについて紹介致します。

<利用者様情報>

A様

昭和4年 7月5日生まれ (85歳)

介護度1 既往歴 認知症(平成19年ごろ～)

急性膵炎

<生活歴>

神奈川県生まれ。学校卒業後地元の会社に就職。昭和27年ごろ結婚。

夫の転勤に伴い高崎に移住。その後専業主婦として過ごす。民生委員を歴任、高齢者大学に通うなど、世話好き・向学心が強い。平成19年ごろから認知症症状が出現。昨年末、ご主人が亡くなられる。

<A様の週間利用予定>

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
休み	通い	通い	訪問	通い	訪問	通い

<利用開始時のA様の状態>

- ・ご利用日でない日は配食を行なっていますが、ほとんど召し上がらずに、自分で買い物に出かけてしまったり、出前を取られたりしてしまいます。それを当日のうちに食べて頂ければよいのですが、購入したことを忘れてしまい、寿司・惣菜などを常温で保存し、翌日に召し上がられるなどの行為が見られました。
- ・拒否が強く、1か月に1,2度の入浴。
- ・配食時に馴染みの美容室や八百屋へ出かけられ、不在のことが数回ありました。家族としてはいつか帰れなくなるのではと心配されていました。

- ・来所されたと同時に「私はこんなところへ来るような人間ではない」と帰宅願望が強く、帰りたくなると興奮され「一人で歩いて帰れるんだから、開けてちょうだい」とおっしゃり、カバンを振り回すなどの行為が見られました。
- ・ご主人と二人暮らしだったのですが、認知症発症後にご主人が入院したため、そのことを認識できず、自宅にいるものと思うことが多いのですが、その一方で、ひとり暮らしであることを認識していることもあります。昨年 12 月末のご主人他界後は、ご主人がまだ生きていたかと思っていたり、逆に亡くなったことを実感され涙ぐまれることが多く見られるようになりました。
- ・職員を“先生”と呼び、歌や体操など新たな知識を勉強をしようと思って来所されました。

上記のように、様々な問題がある A 様。学校での授業にあたる体操・歌・レクリエーションには積極的に参加され、また馴染みの利用者様との会話を楽しまれています。そこで、A 様にとって苦手なことを学校に見立てて、次の取り組みを行ないました。

<1 時間目・入浴>

利用開始当初

職員：「A さん、お風呂に入りましょう」とお誘いしました。しかし、

A 様：「毎晩入っているからいいわ。いつも私は主人と一緒に入っているの。主人に促されてやっと入るんだけどね・・・」

毎回この会話の繰り返しでした。手を変え人を変え・・・、

看護師：「お医者さんから言われています」と言い、

二週間に一度入るか入らないか。ようざん倉賀野では、毎月利用者様の体重測定を行なっています。「あっ！そうだ！！学校と思っている A 様、学校って健康診断行きますよね！？試しに、入浴の日を毎月 1 回の体重測定と見立て、上手く脱衣所に誘導してみてはどうでしょうか」と案が出ました。試に行なってみました。

体重測定後

職員：「A 様これから体重測定をしましょう。次は A 様の番です。」声掛けするとスムーズに脱衣所へ行かれました。しかし入浴と思ひ、疑い深くなられ、

A 様：「みんなはどうしているの??」

職員：「正確な値を出すために、みなさん全部脱いでもらっているんですよ」

すると A 様は渋々ではありますが、衣類を脱ぎ始めました。全部脱げばあとは「せっかくなんでさっぱりしましょう」とお風呂場へ誘導。見事に入浴に成功。このケアを職員間で統一することで、それ以降は一度も拒否されることなく入浴されています。

<2 時間目・配食>

A様が訪問の日は配食を行なっています。ようざん（学校）利用時は、ほぼ完食されるのに対して、配食時は食事量を確認すると、1口、2口がやっとです。少しでも召し上がっていただくにはどうしたらいいのか、カンファレンスを行ないました。ようざん（学校）ご利用日は馴染みの利用者様と共に囲む食事、「今日のごはんはおいしいね」などと会話が弾む日々。しかし家では一人ぼっち・・・さみしがり屋なA様にとって、誰かがそばで会話をしながら食べることが、食事摂取量を増やすもっとも有効な手立てではないかと私達は考えました。小規模多機能型のメリットを活かし、訪問（配食）の際30分ではありますが職員もお弁当をA様のお宅へ持参し、一緒に食べる時間を設けました。最初のうちは「あとで食べるからいいわ」などとおっしゃっていたA様でしたが、「あら、あなたも一緒に食べて下さるの」と自ら飲み物を用意してくださり、一緒に食べるようになりました。表情も明るくなり、たとえ短い時間でも、寂しさを紛らわすことのお役に立てて嬉しく思います。

<3 時間目・オレンジボランティアの活用>

今まで述べたように寂しがり屋なA様、利用のない日は様々な所へ出掛けてしまっている様子がうかがえました。そこで、ご家族に提案し、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、オレンジボランティア、ご本人、娘さん、ようざんで話し合い、ご利用日でない日に、オレンジボランティアの方々にA様のお宅に訪問（安否確認）して頂いています。「主人もいないから・・・」と寂しさのあまり涙ぐまれる日があるそうです。ここでも短い時間ですが、ボランティアの方々がお話を聞いてさしあげると、表情も豊かになるようです。

<4 時間目・ラミネートの活用>

現在一人暮らしであるA様、お迎えに行くと、「あら今日は行く日なの？」と準備をしていない日がしばしば。そこで、A様に利用日がわかりやすい方法はないかと考えました。拡大したカレンダーを貼ってみる・そこに日にちに線を引く・電話の近くにようざんの電話番号を書いたものを貼っておく等試行錯誤をした結果、「A様、〇〇曜日の学校は9時からです。お迎えに伺います。」休みの日は「〇〇曜日の学校はお休みです」といったラミネートを作ることにしました。

すると、まだ日にちの認識は理解できていないもののお迎え・訪問の際はしっかり自宅にいて下さるようになりました。

<放課後・まとめ・考察>

認知症になると、新しい記憶を覚えることが難しくなります。しかしその人が輝いていた時代の事はよく覚えており、また、楽しい・悲しい・寂しいといった感情は残ると言われ

ています。今回取り上げたA様は、民生委員、高齢者大学に通うなど、人の世話や学ぶことが好きな方だったとのこと。そのため、まだまだ学びたいことが多いA様にとってここは「ようざん学校倉賀野教室」です。

今回取り上げた利用者様はほんの一例です。ようざんを学校と思ったり、病院と思ったり、考え方は十人十色です。その利用者様にとって、馴染みの環境に合わせた対応を行うことで、“ホッ”とできる時間・空間を過ごして頂く、ようざん倉賀野自体が私達の自慢です。

「笑顔の溢れる街の名は ぽから」

デイサービスぽから

北沢 奈美子

① はじめに

皆さんは「ぽから」って聞くと何処の事業所の事を思い浮かべますか？

毎日の関わりがあり、美味しい食事を届けてくれる配食センターぽからでしょうか？

それとも毎回事例発表会で強い印象を残す訪問介護ぽからでしょうか？

なかなか強い特色を持った事業所の中で目立ちませんが「ぽから」にはいつも明るく元気な職員が活躍するデイサービスがあります。本日はそんなデイサービスぽからについて紹介していきたいと思います。

② 事業所説明

【名前の由来について】

取り組みについてお話する前に、「ぽから」の名前の由来について紹介したいと思います。

「ようざん」は上杉鷹山から名前がとられているのは有名な話ですよ。

では、「ぽから」って・・・？人の名前？どんな意味でしょうか？ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、答えは・・・。

ネパールにある避暑地の都市名との事です、日本で言えば軽井沢みたいなものだと思って頂ければと思います。

ぽからの利用者様に元登山者の方がいてネパールのぽからに行った事があるとの事で驚きました。お金の無い若い登山者達の中継地点だそうです。こういった出会いがあるのもこの仕事の楽しさのひとつではないでしょうか。

では、いよいよ本題に入ります。

③ デイサービスぽからの特色

デイサービスぽからでは7つの特色というタイトルで独自のチラシを作り、ケアマネージャーの方や地域の方にポスティングをして宣伝しています。

時間の関係上全部は紹介できないのでいくつか紹介していきたいと思います。

特色①【デイサービスで野菜が買える】

月、水、金の朝9時から地元で育った新鮮野菜が100円で買えます。

・野菜販売によく来られていた方が、他のデイサービスが続かず、ぽからなら野菜を買い

に行っていて知っているという事でデイサービス利用に繋がった事がありました。今でもその利用者様はデイサービス利用以外の野菜販売の日は自転車で野菜を買いに来て頂けています。

特色2【お弁当を持って帰れる】

15時以降の帰りの方であれば配食センターからの皆様ご協力のもと、昼食同様、高崎1安いといっても過言ではない1食200円でお弁当をお持ち帰り頂けます。

配偶者の方の分までお持ち帰り可能です。

デイサービスばかりを利用されている利用者様の中には独居の方や、高齢の夫婦だけで生活されている方も多くいらっしゃるため、とても重宝されているサービスの1つです。

特色3【環境を活かした送迎】

通所介護として連れ出し時に拒否があった場合、その方にあった目的付けをして、その方が行動するきっかけを作りデイサービスに来て頂くケースというのはよくありますが、初めて利用される方にとって初回利用は心細くハードルが高いようで、なかなか上手い出来ない事もあります。

そんな時、強力助人に力を貸してもらいます。

訪問介護です、もちろん訪問介護を利用されている方に限りませんが、もともと併設されている事で訪問と通所のサービスを一緒に使われている方も多く、「いつも来ているヘルパーの〇〇さんもいますよ。」と話題に名前を出すだけでも安心して頂けた事や、一緒に訪問介護の職員が来てくれた事でその日のデイサービスに来て頂けたこともありました。

環境に助けてもらうケースも日々あるので、とても助かっています。

④ デイサービスばかりの取り組み 3大レクリエーション

【1】 通貨事業 和紙ちぎり絵教室

和紙を使った、本格的なちぎり絵教室です。

細かい作業は脳の活性化、指先の訓練にも良いとされています。

芸術的作品は感性を刺激し心のケアにもなります。皆様ご自身で作った作品を家に飾って頂けていてとても好評です。

【2】 14mチャレンジ

ルールは至ってシンプル、片道14mの廊下往復をする歩行練習です。

何メートル歩いても参加して頂くとポイントカードにシールで1日1つ貼る事が出来ます。シールもご自分で選び、ポイントを貯めると賞品をプレゼント。

14mチャレンジの効果は未知数ですが、「もっと運動がしたい。」「リハビリに特化した所に行きます。」と言って解約される利用者様はいなくなりました。

【3】月1選手権

1ヶ月かけて月替わりの種目を競う大会です。一ヶ月の間、何度でも挑戦でき、暫定記録も掲示してあるので自己新記録の更新を目指される方や「負けたくない！やるからには絶対優勝するわ！」と闘争心をむき出しにして参加される方もいます。

月初めは大会委員長による、先月の3位までの方に賞状と賞品を授与する表彰式が行われ優勝者の方は額に飾り殿堂入りします。

⑤ 第1回ぽからレクリエーション総選挙

先日、日々行われているレクリエーションについて利用者様の嗜好を知ることを目的に全利用者様にアンケートを取りました。

好みはそれぞれなので順位に良い悪いはありませんが、せつかく集計したのでデイサービスぽからでのレクリエーションの上位3位を発表したいと思います。

皆様も予想しながらご覧ください。

<ノミネートレクリエーション>は抄録をご覧ください。それでは順位発表です。

※(カラオケ大会、14mチャレンジ、月1選手権、和紙ちぎり絵教室、慰問、ドライブ、室内ゲーム、制作、その他)

第3位

第2位

1位発表の前に要望、少数意見も幾つか紹介したいと思います。

第1位

⑥ 終わりに

今回、利用者様だけでなく職員全員にも、ぽからの売りや気を付けている事に関してアンケートをとった所、多少の言い回しが違ったとしても、利用者様本意に、明るく楽しく過ごしてもらおうという思いは全員一緒でした。

ぽからに溢れる笑顔は職員一人一人の目配り、気配り、思いやりに裏付けされたものだと再認識する機会ともなりました。

日々、この仕事に関わる以上、どうしたらお客様に喜んでもらえるだろうと考え、ネタが尽きる事もありますが、皆で協力し絞り出したレクリエーションやサービスで盛り上げこれからもぽからに笑顔が溢れば幸いです。

ぽからの事を色々ご紹介させて頂きましたが、本日は「笑顔溢れる街 ぽから」の職員の取り組みと名前の由来だけでも覚えて帰って頂ければと思います。

御静聴ありがとうございました。

チームワークの先にあるたくさんの笑顔

ケアサポートセンターようざん栗崎

関 美沙紀

みなさんケアサポートセンターようざん栗崎ってどんな所にあるかご存じですか？

田んぼや畑に囲まれた、とてものどかな場所で私たちは日々過ごしています。

今回の事例発表のお題、「事業所自慢」！

まず、私達が生活している環境に恵まれていると思いました。

車通りも少なく、散歩中にはお花が咲いていたり、畑に野菜がなっているので、あれはなんですかね～？と散歩しながらクイズを出しデュアルタスクにも繋がります。

でも正直事業所自慢とはどのようにしたらいいのか悩みました。

そこで、せっかくなので一番栗崎の事を分かっている職員にも聞いてみようと思い

「栗崎の良いところってどこだと思いますか？」とアンケートを取ってみましたので、アンケート結果を発表していきたいと思います。

栗崎には明るく、利用者思いの職員が沢山いますので職員紹介も混ぜて発表させていただきます。

ケアサポートセンターようざん栗崎の良いところ→①レクが充実

ケアサポートセンターようざん栗崎では、レクのそれぞれの担当を決め午前1回・午後2回と3部制にしています。

(図①参照)

【図①】

レクリエーション	レクリエーションの内容	役割担当者
朝のレク	歌・体操をメイン	当日のリーダー
午後レク (A)	ADLの高い人を対象とした 担当職員が考えたお任せレク	入浴介助 (中)
午後レク (B)	全員で行うメインのレク	遅日勤

職員の個性を活かしたレクや、それぞれの利用者様に合わせた個別レクが出来るように努めています。介護度平均3.24なので、介護5の利用者様でもできるようなレクや、リハビリを兼ねたアクティブなレクにも力を入れています。(図②参照)

【図②】

《レクリエーション担当者 一覧表》

係り	担当者			内容
ようざん通貨	田邊	新井	和田	ようざん通貨を使用しての企画・管理
行事	田邊	下川	小笠原	行事の企画、運営、調整（地域密着担当-下川）
慰問	関	新井	下川	慰問の企画、運営、調整
外出・外食	和田	関		外出の企画、視察、調整
写真	田邊	関	新井	写真の管理
室内レク	小笠原	和田		室内レクの企画
制作	北爪	青木		制作の企画と実行
レクカレンダー	関	田邊		レクカレンダーのまとめと作成
誕生会・おやつ	佐々木	青木	湯浅	誕生会、おやつレクの企画、調整

毎月新しいレクが増えていく中でも大人気の一部のレクを紹介します。

*巻き巻きゲーム

*ロープでものまね（動画）

このゲームの発案者和田さんです。

またようざん通貨レクではお馴染みの「ダンスパーティー」や「つもりツアー」も大人気です。ダンスパーティーは、2カ月に一度行われます。

職員のギター演奏に合わせ、みんなで踊ったり、マンネリ化しないように季節に合わせた職員の出し物も披露します。車イスの方も上手に手を動かして踊ります。

ダンスは若返り効果もあると言われています。ダンスパーティーをやろうと思ったきっかけでもある利用者様の K 様。毎回ダンスパーティーをとっても楽しみにされており 85 歳にしてこんなに美人でお若いのです。

またダンスパーティーでも職員大活躍です。（北爪さん、湯浅さん）

また、栗崎には以前添乗員をしていた職員がいます。（田邊さん）

そこで思いついたイベント！その名も「つもりツアー」！観光地の写真や資料を見てもらいながら、観光地の話をしたり案内をして、中々旅行に行けないみなさまに旅行に行った気分を味わってもらおう！というイベントです。北海道ツアー、沖縄ツアー、ハワイツアーが行われました。

→②おいしいおやつレク

近くの市場や、目の前に鈴木農園さんの畑がある為、野菜・果物の戴き物が多いのです。

その為美味しいおやつ作りができます。その日の内に利用者様と一緒に調理して皆で美味しくいただきます。（下川さん）

(新井さん) ケアサポートセンターようざん栗崎の良いところ→③地域との交流が図られている

小規模多機能は地域密着型サービスです。利用者様が住み慣れた地域で生活を継続できるように支援すること。

近所の方も多いため地域行事に参加したり、地域交流に励んでいます。

- ・毎年岩鼻小学校5年生が体験学習に来て、子供達が出し物を披露したり、お手玉やあやとり等一緒に行ない利用者様と小学生との交流を深めます。また村田係長が小学校に行き認知症について子供たちに教えています。「中々おじいちゃん、おばあちゃんとの交流が少ない小学生にとって、とても良い機会です。」と先生からも喜んで頂いています。
- ・岩鼻小のバザーにも開設当時から毎年参加しています。利用者様と一緒に雑巾を縫ってバザーに寄付します。その雑巾が100円で販売されていたのには驚きでした。
- ・運動会にも毎年招待頂き、お孫さんの運動会を見に行けてうれしいと利用者様も大喜びです
- ・岩鼻小学校教頭先生も慰問にきて下さいます。
- ・健康福祉大も近い為、大学生の空手部が慰問に来てくれたり、メナードさんとの共同でお化粧品にも来て下さいました。又、看護学生も今年実習に来ています。
- ・防災訓練にも地域の方々が毎回5～6人必ず参加して下さいます。今では職員より誘導が上手いほどです。

ケアサポートセンターようざん栗崎のいいところ→④チームワークがいい

これはアンケート結果の中でも一番多い回答でした。

- ・職員それぞれが思ったことを言える環境
- ・お互いに気を使える環境
- ・職員同士仲が良い為、わからないことも聞きやすい
- ・助け合いの気持ちがたくさんある
- ・職員それぞれが思いやりがあり、行動力がある
- ・看護師との連携がとれている

↓↓↓結果

職員同士で情報共有ができている為利用者様に対してのケアの統一に繋がっていると考えます。

どの世界でも一緒だとは思いますが、介護の仕事は一人で成り立つものではありません。複数の介護職員、看護師、ケアマネージャー、その他専門職等それぞれが大切な役割を担っています。それぞれが最大に役割を発揮して、お互いに高め合い、チームの力で利用者様を支えていきます。

私達が良いチームケアができるのはこの方々の指導があるからだと思います。

まずは我らが主任 只木さん。

まさに介護職が天職！誰にでも裏表なく、平等に接しいつも親身になって私達の相談にものってくださいます。

そんな只木主任のアンケート結果

栗崎の良いところはどこですか？→管理者がいい

紹介が遅れました。

ケアサポートセンターようざん栗崎の所長であり、ようざんの係長でもある村田係長です。いつも私達を厳しく指導して下さいます。厳しさの中にも、優しさがあり栗崎の母的存在です。利用者、職員への思いやりが一番です。

ぬくもりのあるケアをしてください。

毎日職員に言う言葉です。

ケアサポートセンターようざん栗崎のスローガンにもなっています。

「ぬくもり」

これからも利用者様と職員がともに喜び、優しさ、思いやりを心と心で、肌と肌で感じられるケアを実践していきたいと思います。

ようざん栗崎には今日も笑顔がいっぱいです。

ご清聴ありがとうございました。